

外国人の子どもの就学支援基金を創設しました

～皆さんのご支援をお願いします～

増加する 外国人児童・生徒

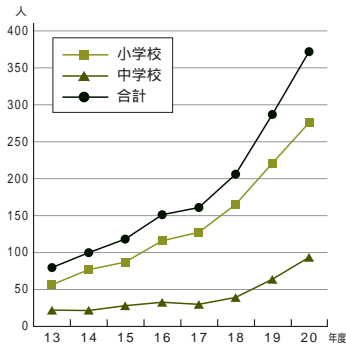
日本で育つ外国人の子どもは、将来、地域社会の担い手となり得る存在です。彼らが日本社会に適応し、安心して生活していくには、日本語や日本の生活習慣を学ぶことが必要であり、そのための教育を受けることは不可欠です。

可児市の小中学校には、1月8日現在、376人の外国人児童・生徒が通っています。

その一方で、外国人の子どもは義務教育となっていないことや、日本語の理解が不十分なことから、不就学や不登校になるケースも見受けられます。

(平成15～16年度調査による)

可児市の
外国人児童・生徒数の推移



日本語を学ぶ子どもでいっぱいの「ばら教室KANI」(土田)

そこで、市は、平成17年に初期日本語適応教室「ばら教室KANI」を開設しました。この教室では、学校への編入時に3カ月ほど日本語や基本的な学校生活を指導した後、各校の教室へ戻る方式が採用され、その後の学校生活で大きな成果を挙げているとともに、他の自治体のモデルとなっています。

しかし、この教室に通う子どもたちは年々増加しており、借り入れた施設が手狭で老朽化しているため、学習環境が充実しているとは言えません。

行政と民間が 手を取り合って

今回、市は1月に、岐阜県や市内の経済団体、民間企業、市民の皆さんの幅広いご理解を得て、「外国人の子どもの就学支援基金」を創設しました。この基金により、外国人の子どもたちが将来に夢を持てるよう学習環境を整備し、就学支援をさらに進めてまいります。



基金設立の目的 外国人児童・生徒の就学のための初期適応指導教室などの学習環境整備

基金目標額 6千万円(県・市・民間拠出、取崩し型)

支援事業の内容 外国人の児童・生徒に対する初期適応指導教室の新設 初期適応教室などにかかる経常経費



(株)イーワンパッケージから 民間第1号寄附

基金に皆さんの「ご支援を

子どもたちの問題は、地域全体の課題でもありません。そのため、外国人の子どもに対する就学支援も、さまざまな地域社会の担い手が協力して行う必要があります。

この基金に、企業や市民の皆さんの温かいご支援をお願いいたします。

支援方法など詳しくはまちづくり推進課 ☎11111へお問い合わせください